

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 8月 30日

氏名 (フリガナ)	小林 絵美里 (コバヤシ エミリ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名 学年	慶應義塾大学 5年
<p>この度は、貴財団の助成に選んでいただきまして、誠にありがとうございました。臨床実習中の医学部5年生という時期に、ハワイ大学医学部の講師や学生、全国の志の高い医学生に出会い、交流する機会を頂けたことは、想像を何倍も超えた貴重で代え難い経験であり、人生で二度とない財産を与えて頂いたと思っております。振り返ると、私が医学部夏期集中医学英語研修への参加を志望した動機は大きく二つありました。まず一つ目は、医学英語のスキルを身につけ、将来臨床医としても研究者としても国際的に活躍できる人材になりたいということでした。コロナ禍で大学のオンライン授業では十分に学べなかった医学英語の基礎から、問診と Case Presentation の方法を学ぶことのできる Medical English の授業や実践のプログラムは、応募する時点で大変魅力的でした。実際、症例を渡され小グループで鑑別を考え議論するという授業では、現地で初めて出会った別大学の医学生が活発に医学英語を使いこなしてディスカッションしている様子に大変刺激を受けました。ただ自分は、頭に日本語で該当する症状や鑑別、検査内容、診断などは浮かぶ一方で、積極的にディスカッションに参加するためには医学英語の知識が圧倒的に不足しており、授業へ受動的な参加になってしまったと感じ、悔しい思いをしました。英語の運用能力はもちろんですが、それ以上に自分に不足していたのは、Medical term の知識でした。今後控える海外大学での臨床実習ではその反省と経験を必ず活かせるよう、今回のプログラムで直面した壁と悔しさを払拭して向かいたいと思います。海外の医学界で活躍するというのはまだ遠い先の抽象的な Vision であるので、まず一歩ずつ、医学英語の知識を増やす、使いこなす練習をする、医学的な議論に能動的に参加できるようになるという Mission を達成して行きたいと思います。志望動機の一つ目には、現地の学生や意欲ある他大学の学生と交流することで、医学的な視野はもちろん、多様な価値観に触れ、人間的に豊かな考え方ができる人材になりたいということも挙げました。将来、臨床医として様々な視点を客観的に理解し、チームと協調しながらもリードできる存在になるためには、同じ医師という職業を志す同士、医師とチームの他職種、医師と患者という関係の中で、自分と他人の考えの違い、そして日本と海外の教育の違いを知る経験は大変大切だと考えています。実際、このプログラムを通して、自分の進むキャリアビジョンと夢を明確に掲げ、それを実現させるために、確固たる意志と揺るがない自分の軸を持って、能動的に自分で道を切り開きながら歩んでいる参加者に出会いました。これまでに出会うことのなかった、全国トップクラスの志と異色の夢を持った同級生たちと語り合い、お互いに夢を応援したり相談したりできる仲間に出会えたことは、間違いなく人生の財産になりましたし、大変刺激を受ける毎日でした。プログラム参加前には自分自身思い描いていなかった将来の働き方と価値観を考えるきっかけをくれました。ハワイ大学の先生も大変協力的で、良い点も改善点も含め多くのアドバイスをくださいました。最後に、私は今回の参加を通して、自分の全般的な物の考え方を前向きに変え、どんなチャンスや困難にも受けて立ち、何事にも恐れず挑戦していこうと思直しました。慶應に特待生で入学させて頂いたという責任を自分の向上心に変えて、今回のプログラムで得た経験と刺激を踏まえてもう一度将来像を見つめ直してみたいと思います。今自分に足りないスキルを必ず身につけ、将来臨床と研究の医学の世界で、性別や国籍の壁を越えて活躍する人材になれるよう弛まぬ努力をする事を約束します。改めて、この度は大変貴重でかけがえの無い経験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。参加費用をご支援くださった日米医学医療交流財団様を始め、運営に尽力くださった東海大学やハワイ大学の皆様、多くの刺激と成長を与えてくれた同プログラム参加者の皆様に、心より感謝申し上げます。</p>	